

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900476		
法人名	有限会社久保田電気		
事業所名	グループホームマロン館	ユニット名(2号館
所在地	茨城県かすみがうら市宍倉6182-46		
自己評価作成日	令和 3年 4月 27日	評価結果市町村受理日	令和 3年 7月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900476-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のなかで畑を作り、利用者様に目でみて季節を感じてもらい、収穫したものを食べてもらっています。ご近所さんから届く旬の野菜を使った献立にして、食事を楽しんでもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、栗林に囲まれ静かな環境に立地している。各ユニットを繋ぐ廊下も広く、利用者は日々歩行訓練に取り組んでいる。
 コロナ禍となり、外出や行事にも制限があるが職員が意見を出し合い、以前は地域住民も招待して開催していたバーベキュー大会を今年も形をかえてでもできないか検討し、居間兼食堂でバーベキュー大会を利用者のみで開催し楽しんでもらえるように常日頃から工夫されている。
 また、利用者から買い物のメモを預かった時は、職員間で共有し早期に対応するなど利用者を中心にケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の家族のように愛情を持って接するように心がけています。一人一人が自由にのんびりと生活しています。	理念を居間や玄関に掲示し、代表や管理者が職員会議で理念の意義等を説明し業務に取り組みやすいようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が野菜を届けてくれたり、マッサージ機の寄付をいただきました。	今年はコロナ禍で行われていないが、事業所のバーベキューに地域住民を招待したり、子供会の廃品回収に協力する等、交流をしている。近所からの野菜のおすそ分けなどがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誕生会などの行事の時にボランティアで余興をしていただき、利用者様とふれあってもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の流行のなかでの施設での状況を伝え、意見をもらっています。	市職員や民生委員等が参加して定期的開催している。会議の中で職員不足を相談したところ外国人労働者受け入れについてアドバイスをもらい導入している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き部屋が出た時に相談したり、また市町村の担当者から入居の相談があったりしています。	管理者が窓口を訪問するほか、介護相談員を受け入れたり、地域のケアマネ会に参加して情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のミーティングの時に話し合いをしています。玄関のカギも施錠しないようにしています。	身体拘束排除に関しては毎月のミーティング時に話し合いを行っているが、身体拘束排除に関する委員会としての記録が残されるまでに至っていない。玄関は常に開放し、自由な出入りを可能にしている。	身体拘束排除委員会や定期的な研修の開催を行い、記録に残し振り返りや確認がいつでもできる体制が整い実践につながることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	転倒や打撲による怪我がないように努めています。入浴時に身体のアザなどないか注意深く観察するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に行ったり、資料を見られるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時に話をしています。また疑問点などにはその都度対応できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とのコミュニケーションをとりながら意見や要望を聞くように心がけています。家族とも連絡を密にとるようにしています。	面会時や衣類などを届けてもらうときに意見を聞くようにしている。利用者や家族等から出た意見は、管理者が要望書に残している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から会話で意見を言ってもらったり、月1回のミーティングの場で話し合いをしています。	月1回有給をとりたいという職員の希望に合わせて毎月とってもらっている。毎年恒例行事で行ってきたバーベキューを、形態を変えて行いたいという職員の意見で実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況、希望を聞いて、勤務表を作成しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加をすすめています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの研修会に参加し、他の施設の方と情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	食事やお茶の時間に座っていただくテーブルの位置に気がつかっている。安心して過ごせる場になるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にこれまでの生活歴や困っていることなどを聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設との連携を図り、グループホームでの介護が難しくなってきた方は別の施設をすすめた方もいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	部屋の清掃をしていただいたり、食事前のテーブル拭きやマット敷きなどを手伝ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会はほとんどの方がお断りしていますが、どうしても不安になる方や体が弱ってきた方などはこちらから連絡して、短時間で面会していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症のため面会などが出来ていません。	入居時に家族等に聞き取りした事や普段の会話から聞き取りしたことを個人ファイルに記録し職員間で共有している。コロナ禍でもできることをして関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の気持ちに寄り添い、話ができるよう、テーブルの位置に気がつかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご家族が野菜を持ってきてくれる方もいます。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じて、買物に行ったり、好むものをこちらで買ってあげたりしています。	日々の関りからも思いや意向を把握するように職員は努めている。利用者から買い物してきて欲しいもの等のメモをもらって購入するなど、できるだけ利用者の希望は汲み取れるように、申し送りノートや業務日誌等で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族よりお話をしてもらったり、本人との会話で聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、検温、血圧を測り、日々の様子を観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月に一度、職員全員でモニタリングを行い、話し合いをしています。	利用者や家族等の意向を踏まえ、医療関係者の意見を参考にしながら管理者や介護支援専門員で話し合いを行い、計画を確定している。2ヶ月毎に、モニタリングと評価を行って計画を見直すとともに、利用者の状態に変化が生じた場合には、随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者記録に気づいた事を記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様態の変化に応じて、医療機関をすぐに受診できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	リハビリ体操やカラオケで体を動かしたり、歌をうたって楽しんでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を受診しています。月2回の訪問診療で診てもらっている方もいます。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回、訪問歯科診療が月1回ある。訪問看護師が週1回状況確認に来てくれている。希望するかかりつけ医への受診が可能なことも説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療で来てくださる先生に相談したり、訪問看護ステーションとの連携により来てくださる看護師に相談したりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と主治医の先生の話がある時は、できるだけ一緒に話を聞き、退院後もスムーズに介護ができるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には一度、看取りの話はしていません。時期が来た時には主治医の先生、看護師とともに支援しています。	看取りに関する指針と同意書を整備し、契約時に説明するとともに、状況に応じて都度意思確認を行っているが、重度化についてはまだ整備されていない。職員は重度化や看取りに関する研修を行うまでには至っておらず、マニュアルも整備されていない。	重度化に関する同意書、指針の整備、定期的な研修の開催、マニュアル作成により、職員の理解が深まり業務に活かすとともに、利用者や家族等にも事業所の方針が伝わりやすくなることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習、研修等に参加していただくようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の時に民生委員さんと避難場所の確認や事業所として役割を話し合っています。	避難訓練を行っているが、年2回行うまでには至っていない。訓練後の反省会を行っているが次回への課題を抽出するまでには至っていない。	年2回の避難訓練の実施(夜間想定を含む)や反省会や課題抽出も行き、次回の訓練に活かせるようになることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
				ur	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの時間に合わせて、トイレへの誘導であったり、居室への誘導や起床などに気を配っています。	個人情報に関する同意書を整備しているが箇条書きで簡素化され分かりにくいものとなっている。職員が守秘義務や人権尊重についての研修を受けるまでには至っていない。	利用者や家族等の理解しやすい内容の同意書作成や定期的な研修の開催により職員が人権尊重やプライバシーの理解が深まることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意にそうようにコミュニケーションをとっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の居室でテレビをみて過ごす人や休まれる方などがいます。元気な方は外に散歩に行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師に2ヶ月に1回来館してもらっています。1日おきに入浴を促すようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜をつかった献立で1人1人の状態に応じて、トロミをつけたり刻み食にしたりしています。食事前にテーブル拭きのお手伝いをしてもらっています。	利用者の好物や苦手なものに配慮した献立の工夫をしている。誕生日には手作りケーキでお祝いをしたり、コロナ禍前は外出に出かけるなどして食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせて食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っています。歯科医の訪問診療で歯の状態を診てもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿量の多い方や少ない方に合わせたトイレの介助やおムツの交換などに気をつけています。	事業所では夜間もトイレでの排泄を心掛けていますが、出来るだけ昼間に排泄出来るようコントロールしている。毎日午前10時に体操を実施するなど、便秘にならないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をつけて、排便のチェックをして、気にかけるようにしています。食事は野菜中心の献立にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1日おきに入浴していただいているが、入浴前には声をかけ、体調や本人の意志を確認してから入浴してもらっています。	基本一日おきで3～4名ずつ入浴している。毎日風呂を実施しているため、希望に応じ毎日でも入浴が可能となっている。体調に合わせてシャワー浴や清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の洗濯や布団を干すなどして気持ちよく眠れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルして全ての職員が確認できるようにしています。薬が変わった時にはその都度、申し送りノートで知らせるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の居室の清掃や食事前の準備を手伝っていただいています。コーヒーの好きな方には適宜飲んでいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症流行のため、外出はできていません。	コロナ禍の為外出はしていないが、天気の良い日には近隣を散歩したり、玄関前のベンチに座って日光浴をしている。コロナ禍前は3ヶ月に1度のペースで花見などに外出をしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いで好きな物を買っていただいています。今は感染症流行のため、出かける事ができないので、職員が買ってきています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから外を眺められるので、梨や栗の実がなるのを見て、季節を感じています。	ユニットをつなぐ長い廊下で利用者が歩行訓練を行える場となっている。各ユニット毎にテレビやソファがあり、寛いで過ごすことができる。季節を感じることで飾りを作成し、居間兼食堂に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にイスを置いて、会話を楽しめるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの物を持ってきていただいたり、家族や事業所内で撮った写真をかざっています。	希望によってベットと布団を選べるようにしたり、床に畳やじゅうたんを敷いている。使い慣れたものを持ち込んでもらえるように家族等に話している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室での転倒で怪我がないように床にじゅうたんや畳を敷いたり、寝たきりにならないように日中はイスに座ってもらえるようにイスをおいています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームマロン館

作成日 令和 3年 7月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束に関する定期的な研修が行われていない。	身体拘束廃止委員会や定期的な研修の開催を行い、記録に残し、振り返りがいつでもできる体制を整い、実践につなげる。	毎月、ミーティング終了後、身体拘束廃止委員会及び研修を行い、記録を詳細に残し、振り返りができるようにする。	3ヶ月
2	12	重度化した場合のマニュアルや意思確認ができていない。また、研修を行うまでには至っていない。	重度化に関して、職員の理解が深まり、業務に活かされるとともに、利用者や家族等に事業所の方針を伝える。	重度化に関する同意書、指針の整備、マニュアルを作成するとともに、定期的な研修を開催する。	3ヶ月
3	13	避難訓練を行っているが、年2回行うまでには至っていない。また、次回への課題を抽出するまでには至っていない。	避難訓練を年2回行い、課題を抽出し、次回の訓練に活かす。	夜間想定を含み、年2回避難訓練を行い、訓練後の反省会で必ず次回の訓練への課題抽出を行い、記録に残す。	6ヶ月
4	14	個人情報に関する同意書が簡素化され、分かりにくい。また、守秘義務や人権尊重についての研修を受けるまでには至っていない。	同意書を利用者や家族等の理解しやすいものにするとともに、職員が人権尊重やプライバシーへの理解が深まるようにする。	個人情報に関する同意書を利用者や家族等が理解しやすいものに作成し直す。また、人権尊重やプライバシーに定期的な研修を開催する。	3ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。